

群馬県板倉町立小学校 防災教育学習指導計画(案)

単元

自然災害からくらしを守る

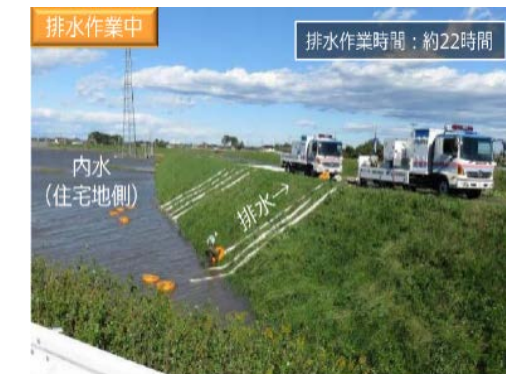
【小学校 第4学年 社会科】



令和元年東日本台風(台風19号)による出水時の渡良瀬遊水地付近の状況



大高島河川防災ステーション



排水ポンプ車による排水状況

令和2年7月
利根川上流域大規模氾濫に
関する減災対策協議会

目 次

1.	経緯と目的		1
2.	教材観・指導観		1
3.	単元の目的		1
4.	指導計画(案)		2
4.1	(1/12)自然災害から人々を守る活動		3
4.2	(2/12)過去に起こった災害		7
4.3	(3/12)わたしたちの楽校での災害に対する備え		12
4.4	(4/12)板倉町での水害に対する備えを調べよう		13
4.5	(5/12)消防団や自主防災組織について調べよう		15
4.6	(6/12)水害が起こったら、国や県、町はどのようにするのか		16
4.7	(7/12)災害が起こったとき自分でできることは何だろう		19
4.8	(8～10/12)防災体験ができる施設に行ってみよう		21
4.9	(11～12/12)『マイタイムライン』を作ってみよう		22

防災教育学習指導計画（案）

「自然災害からくらしを守る（小学校第4学年社会科）」

1. 経緯と目的

自然災害から命を守るためには、一人一人が災害時において適切な避難行動をとる能力を養う必要があります。幼少期から防災教育を進めることは、自然災害に関する「心構え」と「知識」を備えた個人の育成に効果的であり、これにより子供から家庭、さらに地域への防災知識等の浸透が期待されています。

国土交通省利根川上流河川事務所では、大規模水害に対し、「逃げ遅れゼロを目指す」ことを目的に、第4学年社会科の単元『自然災害からくらしを守る』の教材観・指導観、単元の目標から作成された群馬県板倉町立小学校の学習指導計画（案）を基に、管理する河川の沿川及びその周辺の自治体にある学校においても活用できるように「河川に関わる資料」を付した『防災教育学習指導計画（案）』を作成しました。

2. 教材観・指導観

『自然災害からくらしを守る』の単元は、学習指導要領の改訂に伴い小学校第4学年の内容に独立して移行されたものであり、県や市町等の地域の関係機関や人々は自然災害に対して協力して対処し、様々な備えをしていることを理解できるようにすることをねらいとしています。また、「自然災害時における地方公共団体の働きや地域の人々の工夫・努力等に関する指導を充実すること」が示されています。

そのことを踏まえ、自然災害の中から主に水害を取り上げ、「つかむ」、「調べる」、「みんなで確かめる」、「広げ深める」という過程で教材観・指導観を設定しています。

「つかむ」過程では、はじめに過去に発生したカスリーン台風や関東・東北豪雨、令和元年東日本台風(台風19号)の被災状況の写真や映像などを見た後、台風や洪水についての本や資料を集めて調べるとともに、もしも身近な利根川や渡良瀬川の堤防が再び壊れたらどうなるかを話しあい、利根川が過去に氾濫や被災した事実気付かせて、もしも今利根川が氾濫したらどうなるのか、被害を減らすために“誰が”、“どのような”取組を行ってきたのかという視点をもって、調べる過程に入る。

「調べる」過程では、利根川の氾濫による「水害」の備えに対する「国・県・市町・地域・小学校」の取組について調べていく。その際、河川の整備、地域防災計画の策定、水防団の強化等、「国・県・市町・地域」が協力し、様々な方法で「水害」に備えている様子を捉えることができるようにする。利根川の歴史や氾濫による被害状況、水害に対する当時の人々の活動を学び、現在までの水害に対する地域や行政機関の取組を理解する。また、地域の消防署や市町職員をゲストティーチャーとして話を聞き、地域

や市町の水害への対応を知る時間を設ける。さらに、実際に水害が起きたら国や県・市町・消防署・警察署がどのように対応するか調べるとともに、自分ができることを考えてもらい、水害への備えの必要性を感じさせる。

「みんなで確かめる」過程においては、利根川の河川防災ステーションで防災体験として、豪雨体験や土のう作り、災害対策車両の見学を行い、水害の発生する雨の強さや水害対応について実地体験を行う。

「広げ深める」過程においては、これまで学んできた水害への対応の取組を踏まえ、子供たちが各自のマイタイムラインの作成を行い、水害発生時の各自の防災行動をあらかじめイメージして、安全に避難するための行動とタイミング、課題を考え、大規模水害に対し「逃げ遅れゼロ」を達成できる避難行動計画を考えることとした。

（用語）

水害：水による災害、すなわち洪水や高潮など、水によりもたらされる個人的・社会的被害の総称。 水災（すいさい）。これを制御することを治水と呼ぶ。

氾濫：川の水などが増して勢いよくあふれ出ること。洪水になること。

3. 単元の目標

- 過去に発生した自然災害、関係機関の協力などに着目して、聴き取り調査をしたり資料で調べたりしてまとめ、群馬県の関係機関や人々は、災害に対し様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解することができるようにする。
- 今後起こりうる自然災害に対して地域の関係諸機関や人々が行う、自然災害から人々を守る活動を捉え、日頃から備えをするなど、自分たちでできることを考え、選択・判断することができるようにする。
- 自然災害から人々を守る様々な取組みについて学習問題の解決に意欲的に追究し、地域社会の一員として自分たちにできることを考え協力しようとする態度を養うことができるようにする。

4. 指導計画（案）

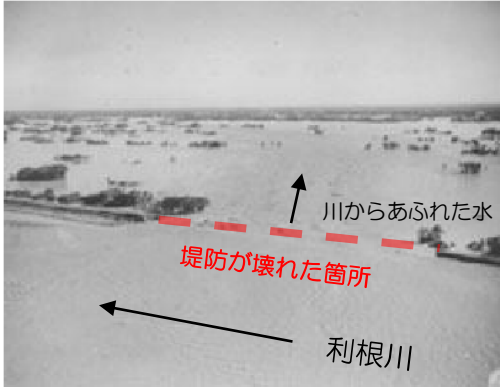
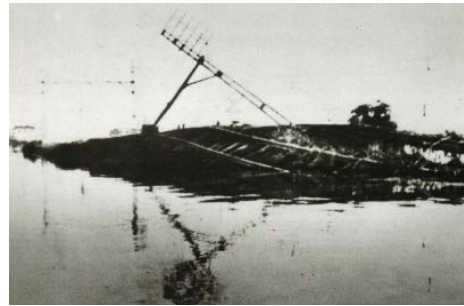
指導計画（全12時間）

単元名 自然災害からくらしを守る

段	主な学習活動	時	予想されるこどもの反応 ◇資料	指導・支援	関係する資料	第4学年以外で学ぶ内容	ページ
つかむ	①過去に発生した災害の写真や映像などをみて、災害について話し合おう。	1	◎家が水につかっている。 ☆カスリーン台風の時の写真 ☆平成27年 関東・東北豪雨 ◎台風や洪水についての本や資料を集めて調べよう。 ☆人々のくらしは？ ☆どんな被害だったのか	○過去に板倉町（群馬県）で大きな災害となったカスリーン台風や、茨城県の水害について取り上げることに より、より身近で喫緊の課題として捉え、追求しようとする意欲を高めることができるようにする。	・水害写真1：S22年カスリーン台風（利根川の決壊） ・水害写真2：平成27年関東・東北豪雨（鬼怒川の決壊） ・利根川の増水写真（H27年9月台風17・18号、R元年東日本台風） ＜参考資料＞ ・利根川流域、地形 ・利根川の成り立ち「利根川の東遷事業」 ・利根川と渡良瀬川にかこまれた板倉町の地形	地形は第3学年の学習内容	
	学習問題について予想し、単元の学習計画を立てる。		◎もしも、利根川や渡良瀬川の堤防が壊れたら、どうなるのかな、家の人に聞いて、家の備えを調べよう。 ☆自宅や自分たちの地域はどうなるのかな。 ☆町や国の人たちはどうするのかな。 ☆家の人や自分はどうするかな。	○「県や町」「地域」「家庭」「防災センター」「学校」などの観点で調べていくという見通しを持つことができるようにする			
調べる	②過去にどのような災害がおこり、県や地域の人たちはどう対応してきたのか調べて、年表に表してみよう。	2	◎年表にすると、何年おきにあったか、どんなことがあったか、わかりやすくなる。 ◎水害が減っている理由を考えてみよう。 ◎板倉町で起きそうな災害は？ 災害の年表（東京防災等 参考）	○過去の水害について資料で調べたり、年表にまとめたりする活動を設定することにより、これまでの災害について視覚的に捉えることができるようにする。 ○日本で発生した主な自然災害について、年代、種類に整理して提示する。 ○被害の大きさ、生活への影響も理解できるよう、写真や説明を加える。	・全国の主な自然災害と利根川の主要洪水の被害状況 ＜参考資料＞ ・河川改修 ・遊水地・調節池・ダム ・堤防強化 ・治水対策の効果 ・減災対策	河川改修・減災対策は、第5学年の内容	
	③わたしたちの学校での災害に対する備えについて調べよう。 □地震の時 □風水害の時	3	◎学校にある災害に対する備えをしらべよう。 ☆体育館の横に防災倉庫があるよ ☆職員室、体育館に AED がある AED 防災倉庫耐震設備等 ◎アレルギー対応食品はあるのかな	○気付きを「防災のひみつ発見カード」に表す活動を設定することにより、集めた情報を共有したり、整理したりすることができるようにする。	・板倉町の防災施設等 ・洪水浸水想定区域図		
	④わたしたちの町での水害に対する備えについて調べよう。	4	◎板倉町では、風水害に対する備えはどうしているのでしょう。 ☆水塚、あげ船、訓練風景 土囊、排水機場 ◎排水機場はどんな働きをするのかな。 ☆町役場の人の話 川の水が増えると大変だね。	○身近な地域を調査することにより、水害の備えとその意味を具体的に理解することができるようにする。	・救命・救助のイメージ写真 ・板倉町の避難所 ・板倉町の排水機場		
	⑤消防団や自主防災組織の取組について調べよう。	5	◎消防団や自主防災組織について調べよう。 ☆地域が協力することで災害を少しでも減らせるね。 消防訓練 ◎消防団の人に話をきこう	○消防署の人や町役場の担当者をゲストティーチャーとして招いて、話を伺うようにする。	・水防訓練、避難訓練、防災備品 ・水防拠点・堤防点検		
	⑥水害が発生した時に、県や町、消防署や警察署の人々がどのような対策をしているのか調べよう。	6	◎風水害が起こったときに、国や県、町はどのような対策をとるのだろう。 ・TEC-FORCE ◎資料をみて調べよう ☆自助 ガイド、リーフレット ☆共助 板倉町の防災訓練 ☆公助 自衛隊 防災センター	○水害が発生すると、県や町などの関係機関は、協力して対処してきたことを具体的に捉えることができるようにする。	・防災関係機関の情報伝達 ・自衛隊、TEC-FORCE ＜参考資料＞ ・外水氾濫と内水氾濫のメカニズム ・内水による浸水、被害軽減のための排水施設 ・洪水時の関係機関の働き	国・県の働きは、第5学年の内容	
	⑦災害が起こった時、自分でできることはどんなことだろう。	7	◎わたしたちにできることを考える ☆避難所での生活の写真や記事 ◎避難所の生活と普段の生活はちがうね。 ☆助け合うことが大切だね。 ◎避難所ってどんな感じだろう。 ◎避難の仕方はどうすればいいのかな ◎避難所ではどんなことをすればいいのだろう。	○災害当時の避難所の様子を撮った写真や新聞記事を見て、避難者の生活を考えさせるようにする。	・避難所の写真 ・洪水ハザードマップ ＜参考資料＞ ・事前避難、避難行動、川の防災情報		
	⑧防災体験ができる施設に行ってみよう	8 9 10	◎防災体験ができる施設では、どのような学習ができるかな。 ☆土のう作り体験 ☆降雨体験 ◎防災体験ができる施設に行き、どんなことを学びましたか。	○利根川防災センターを見学し、豪雨体験や土嚢作りなどの体験を通して、防災の意識をもつようにする。 ○逃げるを基本として「自分自身の命は自分で守る」を意識させる。	・体験学習の様子 ・体験施設の様子		
広げ深める	⑨防災の取組を学んできて ⑩自分たちに何ができるのかを考えて、「マイ・タイムライン」を作ってみよう。	11 12	◎マイ・タイムラインの作り方を見てみよう。 ◎自分のタイムラインを作ってみよう。	○考えたことを「マイ・タイムライン」に表す場を設けることで、水害が起きる前や起きた後の防災・減災の取り組みについて具体的に考え、判断できるようにする。	・マイタイムラインノート ・避難の留意事項		

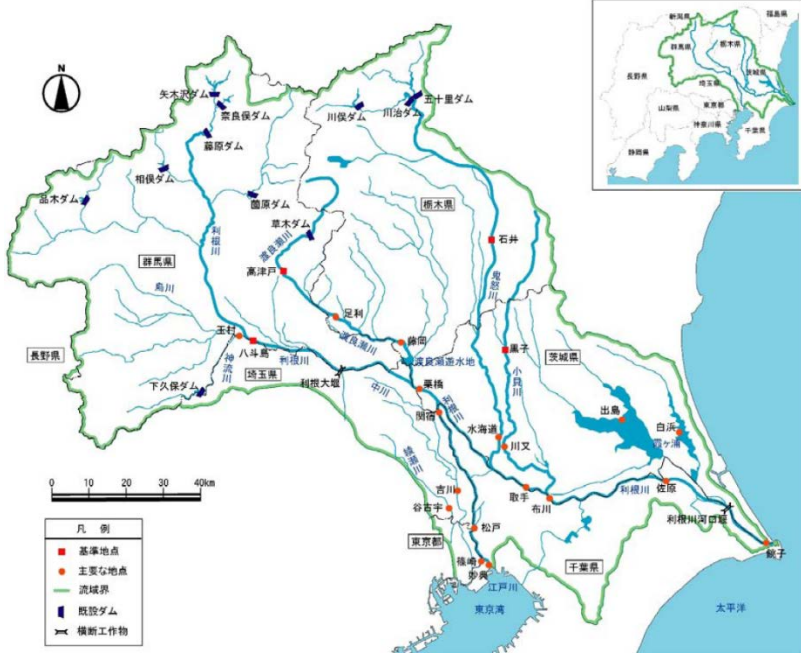
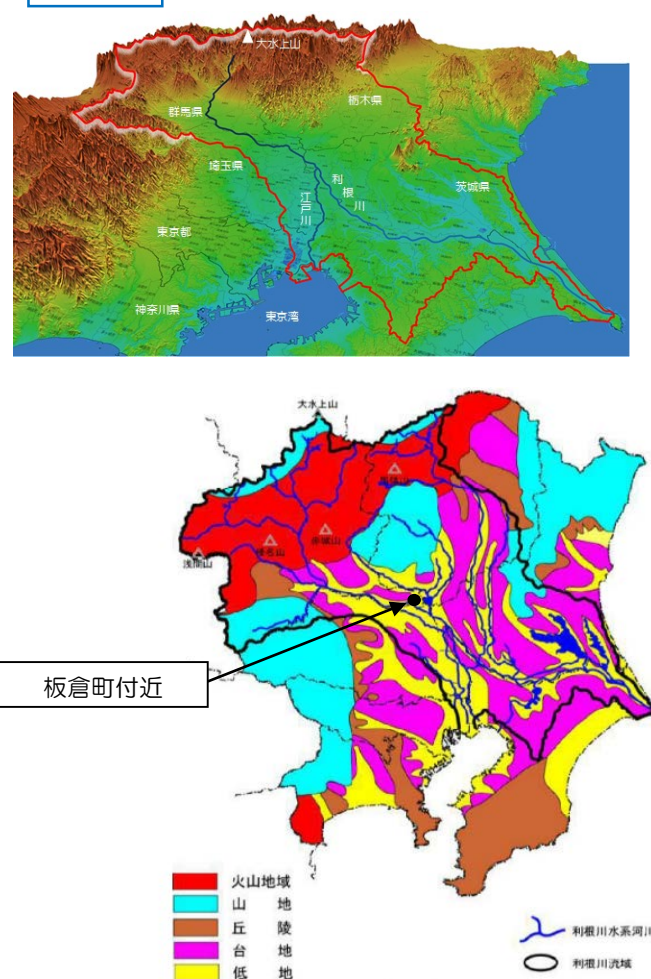
防災教育学習指導計画（案）「自然災害からくらしを守る（小学校 第4学年 社会科）」

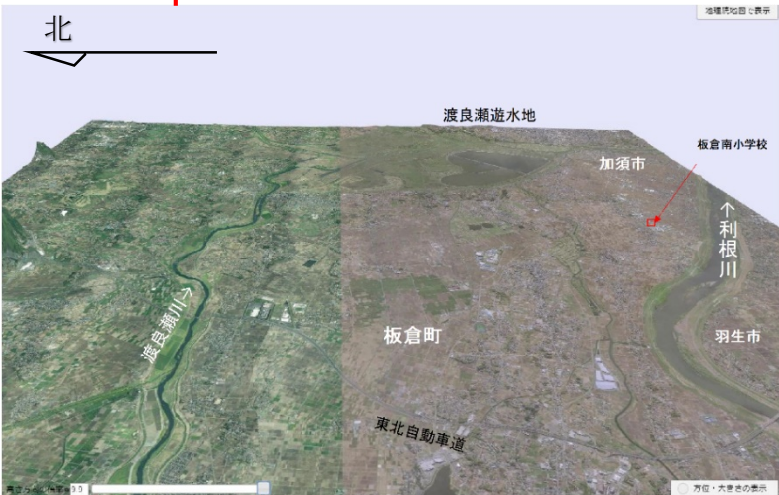
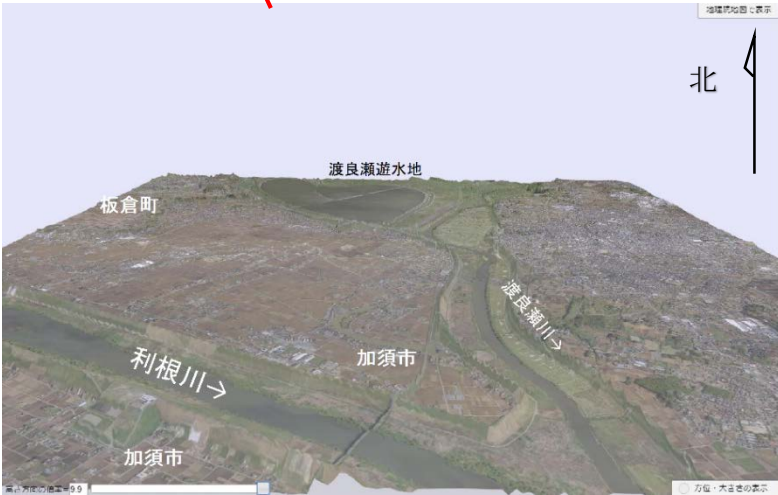
時限	小単元	ねらい
1 / 1 2	「過去に発生した自然災害」	・過去に板倉町（群馬県）で大きな災害となったカスリーン台風や茨城県の水害について取り上げることにより、より身近で喫緊の課題として捉え、追究しようとする意欲を高めることができるようにする

学習指導計画（案）			河川に関わる資料	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、内容）	指導・支援		
つかむ	◆1：過去に発生した災害の写真や映像などをみて、災害について話し合おう。 学習問題について予想し、単元の学習計画を立てる。 ◎家が水につかっている ☆カスリーン台風の写真 ・家が1階屋根あたりまで水につかっている。 ・歩くのが大変そう。 ☆平成27年関東東北豪雨 茨城県常総市の写真 ・水が茶色い。 ・道路がない。 ・川の右側の方がひどい ◎台風や洪水についての本や資料を集めて調べよう。 ☆人々のくらしは？ ☆・どんな被害だったのか ◎もしも、利根川や渡良瀬川の堤防が壊れたら、どうなるのかな 家の人に聞いて、家の備えを調べよう。 ☆自宅や自分たちの地域はどうなるのかな。 ・板倉町の低いところは水浸しになる。低い家は水に浸かる。 ☆町や国の人たちはどうするのかな。 ・市民へ情報を伝える ・壊れた堤防を工事で直す ・避難誘導を行う 等 ☆家の人や自分はどうするかな。 ・逃げる。避難する。	○過去に板倉町（群馬県）で大きな災害となったカスリーン台風や、茨城県の水害について取り上げることにより、より身近で喫緊の課題として捉え、追求しようとする意欲を高めることができるようにする。 ○「県や町」「地域」「家庭」「防災センター」「学校」などの観点で調べていくという見通しを持つことができるようにする	水害写真 1（昭和 22 年カスリーン台風：利根川の決壊）（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p1） (1)利根川沿川の浸水  ・豪雨により、利根川や渡良瀬川では異常な水位上昇となり、複数個所で堤防が決壊しました。 (2)利根川の破堤箇所（現加須市）  ・利根川では異常な水位上昇となり、延長 1300m にわたって溢れ出し、溢れた水によって堤防が徐々に破壊され、約 350m に亘って決壊しました。 (3)利根川の堤防決壊による浸水区域  ・利根川から氾濫した水は埼玉県東部を水没させた後、東京都の葛飾区や江戸川区、足立区まで到達しました。 (4)板倉町海老瀬地先の東武鉄道の被災状況  ・川からあふれた水は、膨大な土砂と共に流れ出し、多くの人命と財産が失われました。 (5)栃木県足利市の浸水被害  (6)栗橋町（現久喜市）の浸水 	対象学年 第 4 学年

学習指導計画（案）		指導・支援	河川に関わる資料	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、 内容）			
つかむ			水害写真2（平成 27 年関東・東北豪雨：鬼怒川の決壊） (7) 茨城県常総市の堤防決壊地点からの氾濫状況 (8) 氾濫水による浸水状況    ・鬼怒川の決壊等に伴う氾濫水により、常総市では面積の約 1/3 に相当する範囲で浸水被害が発生しました。 ・豪雨により、鬼怒川では異常な水位上昇となり、複数個所で堤防から溢れた他、常総市三坂地先で堤防が決壊しました。	対象学年 第 4 学年
つかむ	<参考情報> ◎雨が降って利根川や渡良瀬川が増水したらどうなるのでしょうか。 ・ふだんは散歩や、スポーツ、公園等で利用されている河川敷が水に浸かる。 ・河川敷に駐車していると車も浸かる。		利根川の水増し写真（平成 27 年 9 月台風 18 号、令和元年東日本台風（台風 19 号）） (9) 出水による河川の水増し状況（平成 27 年 9 月台風 18 号） 利根川：栗橋地点 渡良瀬川：古河地点     平常時 増水時 平常時 増水時 (10) 出水による河川の水増し状況（令和元年東日本台風（台風 19 号）） 利根川：栗橋地点 利根川：芽吹橋地点     平常時 増水時 平常時 増水時 ・写真は、利根川や渡良瀬川の監視のために設置されているライブカメラの写真です。左側が平常時、右側が洪水により増水している時の写真です。	対象学年 第 4 学年

1) < 参考資料 > 利根川の増水状況／利根川の成り立ち

学習指導計画（案）		指導・支援	河川に関わる資料	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、 内容）			
つかむ	◆身近な利根川の水害の歴史を資料から調べる。 - 過去の歴史からも地域住民は水害に悩まされてきた。 - 同じ地域が何度も水害にあってい - る。 - 近年も増水している。 ◆水害の発生の背景として、流域の特徴を資料から調べる。 - 利根川の流域は日本一広い。 - 河川の勾配はとても緩やかで、水が下流に流れにくい。 - 人口が川沿いに集中している。		利根川流域の特徴（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p20～24） 利根川の流域  利根川は、その源を群馬県の大水上山（標高 1,831m）に発し、渡良瀬川や鬼怒川、小貝川等の支川を合わせ、野田市において江戸川を分派し、太平洋に注ぐ幹川流路延長 322km、流域面積 16,840 km² の一級河川です。 その流域は、東京都、埼玉県、千葉県、茨城県、栃木県及び群馬県の 1 都 5 県にまたがります。 地形  板倉町付近 利根川は、東・北・西の三方を高い山地に囲まれ、南東側だけが関東平野に連なる低地になっています。 この地形的特徴により、利根川の右岸堤防が万が一決壊すると、その氾濫は埼玉県東部、東京都まで達する可能性があります。 利根川の成り立ち「利根川の東遷事業」  利根川の流路は、元は東京湾に流れ込んでいましたが、徳川家康の「利根川東遷事業」により太平洋に流れるよう変更されました。	対象学年 第 4 学年 地形は第 3 学年の学習 内容

学習指導計画（案）		指導・支援	河川に関わる資料	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、 内容）			
つかむ	・板倉町周辺は、利根川と渡良瀬川の堤防にかこまれている。		利根川・渡良瀬川にかこまれた板倉町の地形 ・板倉町は、利根川と渡良瀬川に囲まれています。板倉町の地盤高は、利根川や渡良瀬川の堤防よりも低く、万一堤防が決壊すると、町全体が浸水する可能性があります。  （出典：国土地理院 地理院地図） 写真 板倉町付近の空中写真  図 板倉町付近の立体地形（東北自動車道から東方向）  図 板倉町付近の立体地形 （利根川の渡良瀬川合流点から北方向）	地形は第3学年の学習内容

4.2（2／12）過去に起こった災害

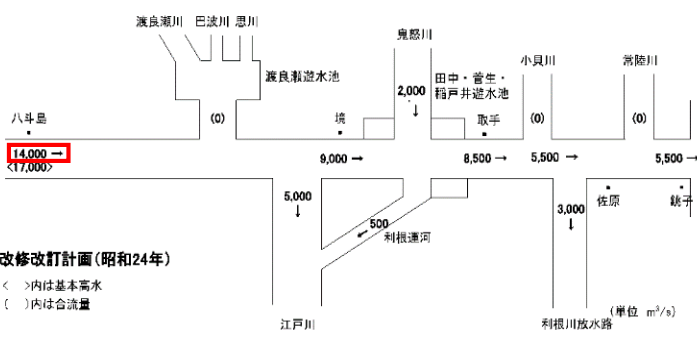
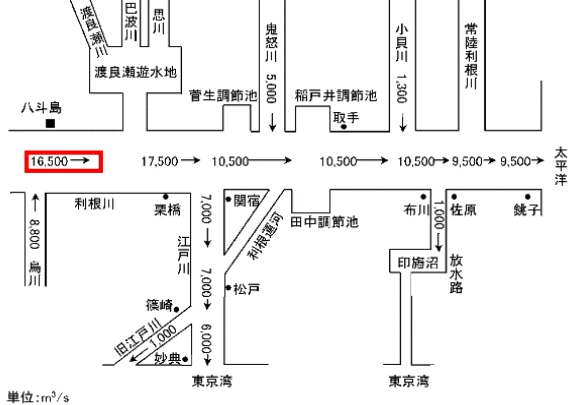
防災教育学習指導計画（案）「自然災害からくらしを守る（小学校 第4学年 社会科）」

学習指導計画（案）作成：板倉町立板倉東小学校
追記：国土交通省 利根川上流河川事務所
河川に関わる資料：国土交通省 利根川上流河川事務所

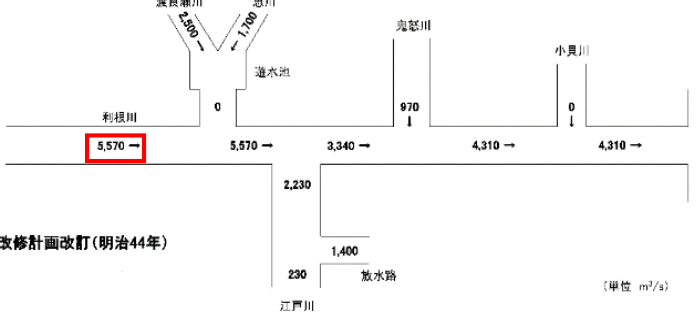
時限	小単元	ねらい
2／12	「過去に起こった災害」	・過去の水害について資料で調べたり、年表にまとめたりする活動を設定することにより、これまでの災害について視覚的にとらえることができるようにする。

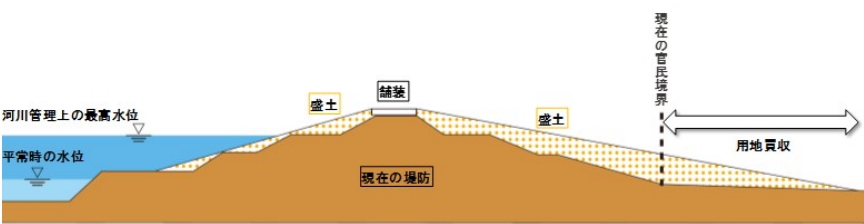
学習指導計画（案）		指導・支援	河川に関わる資料		備考																																																																																																																																																					
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、 内容）																																																																																																																																																									
調べる	◆2：過去にどのような災害がおり、県や地域の人たちはどう対応してきたのか調べて、年表に表してみよう。 ・昭和22年カスリーン台風 平成7年阪神・淡路大震災 平成23年東日本大震災 平成23年台風15号 平成25年台風26号 平成27年関東・東北豪雨 平成30年台風22・24号 令和元年東日本台風(台風19号) ・地震があるね。 ・台風が多い 毎年ある。	○過去の水害について資料で調べたり、年表にまとめたりする活動を設定することにより、これまでの災害について視覚的に捉えることができるようにする。 ○日本で発生した主な自然災害について、年代、種類に整理して提示する。 ○被害の大きさ、生活への影響も理解できるよう、写真や説明を加える。	全国の主な自然災害と利根川流域における主要洪水の被害状況（被災家屋数、浸水面積） （参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p3） 全国の主な自然災害と利根川流域における主要洪水の被害状況		対象学年 第4学年																																																																																																																																																					
	◎年表にすると、何年おきにあったか、どんなことがあったか、わかりやすくなる。 ◎水害が減っている理由を考えてみよう。 ◎板倉町で起きそうな災害は？ 災害の年表（東京防災等 参考） ・地震が多いね。 ・台風の被害もある。 ・被害を受けた人が多いのは？	・資料をみて、年表にしてまとめさせる。 ・自然災害が自然の力によって引き起こされており、この被害を減少させるために人々は、工夫を重ねてきたことに気づけるようにする	<table><tr><th>時代</th><th>年</th><th>和暦</th><th>全国の主な自然災害</th><th>地域</th><th>災害の種類</th></tr><tr><td>平安</td><td>869</td><td>貞観11</td><td>貞観地震（東北地方で大津波 死者約千人）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>鎌倉</td><td>1293</td><td>永仁元</td><td>鎌倉大地震（死者 数千～2万3千人あまり）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>室町</td><td>1498</td><td>明応 7</td><td>明応地震（死者約4万1千人）</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="7">江戸</td><td>1682</td><td>天和 2</td><td>谷田川大出水（幕末まで23回 記録）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1703</td><td>元禄16</td><td>元禄地震（死者3万人超）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1707</td><td>宝永 4</td><td>宝永地震（死者2万人以上）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1726</td><td>享保17</td><td>板倉沼の出水（幕末までに11回を記録）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1792</td><td>寛政4</td><td>雲仙普賢岳噴火（津波により死者1万5千人）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1855</td><td>安政2</td><td>江戸地震（死者7千人）</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">明治</td><td>1896</td><td>明治29</td><td>明治三陸地震津波（死者2万2千人）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1910</td><td>明治43</td><td>明治43年関東大水害（死者・行方不明1349人）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>大正</td><td>1923</td><td>大正12</td><td>関東大震災（死者10万人超）</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="9">昭和</td><td>1933</td><td>昭和8</td><td>昭和三陸地震（死者・行方不明3664人）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1934</td><td>昭和9</td><td>室戸台風（死者・行方不明3000人超）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1945</td><td>昭和20</td><td>枕崎台風（死者・行方不明3756人）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1946</td><td>昭和21</td><td>南海地震（死者1330人）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1947</td><td>昭和22</td><td>カスリーン台風（死者・行方不明1930人）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1949</td><td>昭和24</td><td>キティ台風による洪水</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1959</td><td>昭和34</td><td>伊勢湾台風（死者・行方不明5098人）</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1972</td><td>昭和49</td><td>利根川洪水</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1981</td><td>昭和56</td><td>利根川洪水</td><td></td><td></td></tr><tr><td rowspan="4">平成</td><td>1982</td><td>昭和57</td><td>利根川洪水</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1991</td><td>平成3</td><td>雲仙・普賢岳噴火(死者・行方不明44人)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1993</td><td>平成5</td><td>北海道南西沖地震(10m超の津波 死者202人)</td><td></td><td></td></tr><tr><td>1995</td><td>平成7</td><td>阪神淡路地震(死者6434人)</td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td>1998</td><td>平成10</td><td>利根川洪水</td><td></td><td></td></tr></table> ・利根川流域では、カスリーン台風が最大の被害となっていますが、その後も台風等によって家屋浸水・全半壊や農地の浸水被害が発生しています。 ・全国では、地震や津波による被害も発生しています。		時代	年	和暦	全国の主な自然災害	地域	災害の種類	平安	869	貞観11	貞観地震（東北地方で大津波 死者約千人）			鎌倉	1293	永仁元	鎌倉大地震（死者 数千～2万3千人あまり）			室町	1498	明応 7	明応地震（死者約4万1千人）			江戸	1682	天和 2	谷田川大出水（幕末まで23回 記録）			1703	元禄16	元禄地震（死者3万人超）			1707	宝永 4	宝永地震（死者2万人以上）			1726	享保17	板倉沼の出水（幕末までに11回を記録）			1792	寛政4	雲仙普賢岳噴火（津波により死者1万5千人）			1855	安政2	江戸地震（死者7千人）								明治	1896	明治29	明治三陸地震津波（死者2万2千人）			1910	明治43	明治43年関東大水害（死者・行方不明1349人）			大正	1923	大正12	関東大震災（死者10万人超）			昭和	1933	昭和8	昭和三陸地震（死者・行方不明3664人）			1934	昭和9	室戸台風（死者・行方不明3000人超）			1945	昭和20	枕崎台風（死者・行方不明3756人）			1946	昭和21	南海地震（死者1330人）			1947	昭和22	カスリーン台風（死者・行方不明1930人）			1949	昭和24	キティ台風による洪水			1959	昭和34	伊勢湾台風（死者・行方不明5098人）			1972	昭和49	利根川洪水			1981	昭和56	利根川洪水			平成	1982	昭和57	利根川洪水			1991	平成3	雲仙・普賢岳噴火(死者・行方不明44人)			1993	平成5	北海道南西沖地震(10m超の津波 死者202人)			1995	平成7	阪神淡路地震(死者6434人)				1998	平成10	利根川洪水		
時代	年	和暦	全国の主な自然災害	地域	災害の種類																																																																																																																																																					
平安	869	貞観11	貞観地震（東北地方で大津波 死者約千人）																																																																																																																																																							
鎌倉	1293	永仁元	鎌倉大地震（死者 数千～2万3千人あまり）																																																																																																																																																							
室町	1498	明応 7	明応地震（死者約4万1千人）																																																																																																																																																							
江戸	1682	天和 2	谷田川大出水（幕末まで23回 記録）																																																																																																																																																							
	1703	元禄16	元禄地震（死者3万人超）																																																																																																																																																							
	1707	宝永 4	宝永地震（死者2万人以上）																																																																																																																																																							
	1726	享保17	板倉沼の出水（幕末までに11回を記録）																																																																																																																																																							
	1792	寛政4	雲仙普賢岳噴火（津波により死者1万5千人）																																																																																																																																																							
	1855	安政2	江戸地震（死者7千人）																																																																																																																																																							
明治	1896	明治29	明治三陸地震津波（死者2万2千人）																																																																																																																																																							
	1910	明治43	明治43年関東大水害（死者・行方不明1349人）																																																																																																																																																							
大正	1923	大正12	関東大震災（死者10万人超）																																																																																																																																																							
昭和	1933	昭和8	昭和三陸地震（死者・行方不明3664人）																																																																																																																																																							
	1934	昭和9	室戸台風（死者・行方不明3000人超）																																																																																																																																																							
	1945	昭和20	枕崎台風（死者・行方不明3756人）																																																																																																																																																							
	1946	昭和21	南海地震（死者1330人）																																																																																																																																																							
	1947	昭和22	カスリーン台風（死者・行方不明1930人）																																																																																																																																																							
	1949	昭和24	キティ台風による洪水																																																																																																																																																							
	1959	昭和34	伊勢湾台風（死者・行方不明5098人）																																																																																																																																																							
	1972	昭和49	利根川洪水																																																																																																																																																							
	1981	昭和56	利根川洪水																																																																																																																																																							
平成	1982	昭和57	利根川洪水																																																																																																																																																							
	1991	平成3	雲仙・普賢岳噴火(死者・行方不明44人)																																																																																																																																																							
	1993	平成5	北海道南西沖地震(10m超の津波 死者202人)																																																																																																																																																							
	1995	平成7	阪神淡路地震(死者6434人)																																																																																																																																																							
	1998	平成10	利根川洪水																																																																																																																																																							
	・年表をみて、感想や思ったことを書きましょう。																																																																																																																																																									

1) <参考資料>利根川の河川改修事業

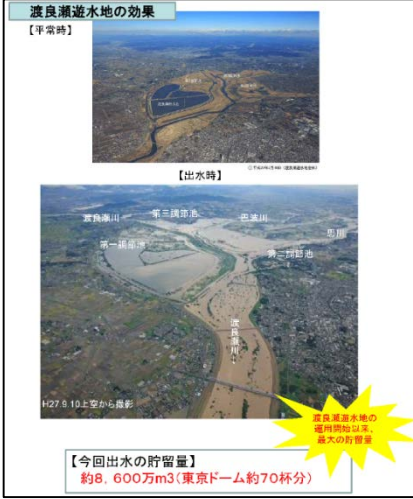
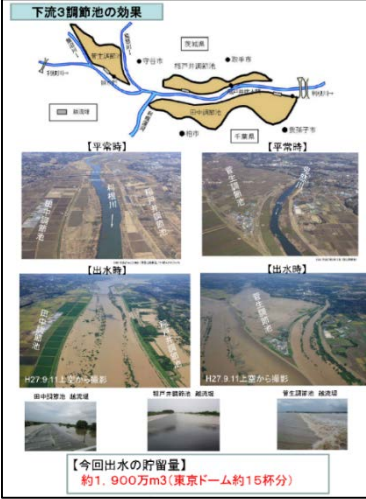
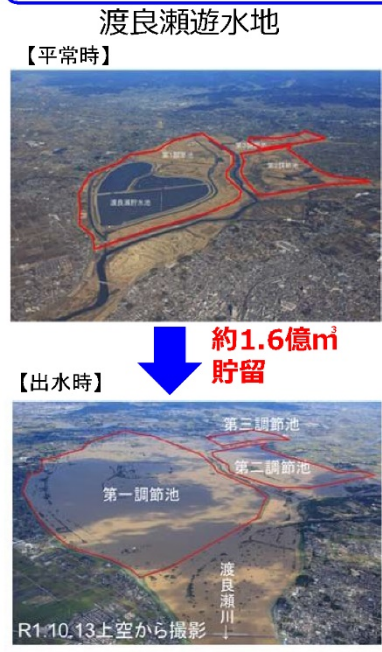
学習指導計画（案）		指導・支援	河川に関わる資料	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、 内容）			
調べる	【国・県の取組】 【町・地域の取組】 ◆利根川の水害に対する国、都県、市区町や地域等が進めている治水対策・減災対策などについて調べる。 ＜治水対策（ハード対策）＞ ・河川改修（国） ・堤防整備〔堤防強化〕（国） ・河道掘削（国） ・放水路・排水機場の整備（国） ・ダム・遊水地・調節池（国）	河川改修（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p25～27） ・利根川では、明治期以降、大きな洪水が起きるたびに河川改修を実施し、安全に洪水を流せる水量（単位：m³/s（読み：トン））を増やしてきました。また、安全に洪水を流せる量を増やすとともに、堤防の築堤や強化、上流部ではダム群、中流部では遊水地など洪水調節施設の整備を進めています。 ・八斗島（やったじま：群馬県伊勢崎市）地点の計画流量は、明治 44 年の計画では 5570m³/s ですが、平成 18 年の計画では、16500m³/s と約3倍になっています。 明治以降の利根川の改修区間（第 1 期～第 3 期）  戦後の改修工事  昭和 24 年改修改訂計画  平成 18 年利根川水系河川整備基本方針  第 3 期工事の概要(明治～戦前の改修工事) 		
調べる				河川改修・減災対策は、第 5 学年の内容

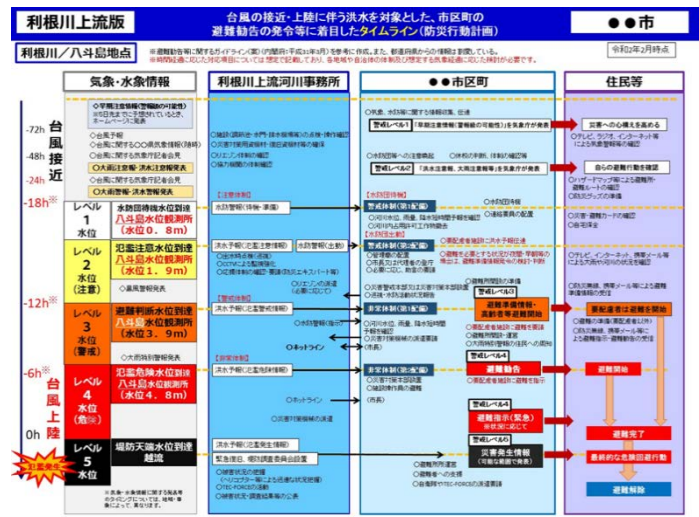
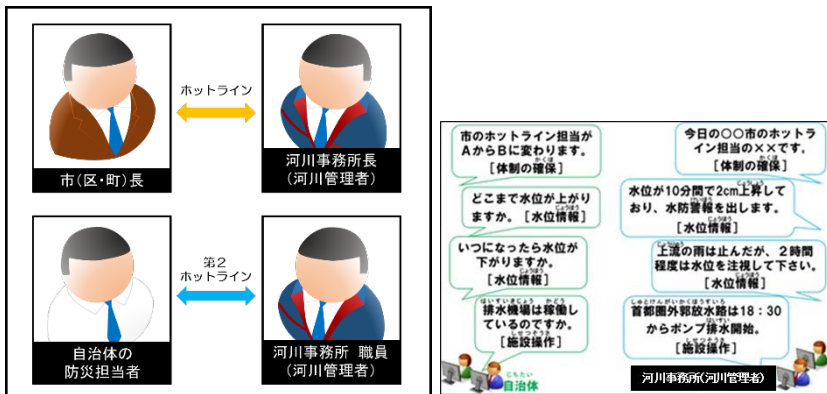
明治44年改修計画



学習指導計画（案）		指導・支援	河川に関わる資料	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、 内容）			
			遊水地・調節池・ダム（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p28） 渡良瀬遊水地 菅生・稲戸井・田中調節池 藤原ダム 矢木沢ダム  - 利根川中流部には、洪水を一時的にため込んで下流に流れる洪水の量を減らすための施設として、渡良瀬遊水地、菅生調節池、稲戸井調節池、田中調節池の整備が進められています。 - 利根川上流部には、洪水をため込んで利用するための多目的ダムが数多く建設されています。	
			堤防強化（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p29～30） 堤防強化対策区間 堤防強化の断面図 堤防強化区間の写真  - 昭和 22 年 9 月のカスリーン台風による利根川の決壊により、そこから溢れた濁流は埼玉県東部及び、下流は東京都葛飾区、江戸川区まで達しました。もし今、利根川が決壊すれば、首都圏では甚大な被害が発生すると想定されます。 - このことから、災害の発生防止及び被害軽減のため、築堤や堤防のかさ上げ、引堤などにより、洪水が河川から溢れないようするとともに、堤防そのものを拡張し堤防が決壊しないように努めています。	河川改修・減災対策は、第5学年の内容

2) <参考資料>国が行う治水対策

学習指導計画（案）		指導・支援	河川に関わる資料	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、内容）			
調べる	【国・県の取組】 【町・地域の取組】 ◆利根川の水害に対する国、都県、市区町や地域等が進めている治水対策・減災対策などについて調べる。 <治水対策の効果> ・渡良瀬遊水地の治水効果		治水対策の効果（施設効果）（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p31～32） H27.9月 台風 17・18 号  【今回出水の貯留量】 約8,600万m³(東京ドーム約70杯分) 令和元年東日本台風（台風 19 号）  【今回出水の貯留量】 約1,900万m³(東京ドーム約15杯分) 平成 29.10 月 台風 21 号 平成29年10月台風21号の影響による出水では、約5,500万m³の洪水を渡良瀬遊水地に貯め込みました。 （昭和45年の供用開始から14回目の貯留となり、歴代5番目の貯水量を記録）  10月24日の渡良瀬遊水地の状況 (H29.10.24 10時撮影) 東京ドーム 約44杯分の洪水を 貯め込みました！ ●台風19号による洪水に対して、渡良瀬遊水地、菅生調節池、稲戸井調節池、田中調節池で過去最大となる合計約2.5億m³(東京ドーム約200杯)の洪水貯留効果を発揮しました。  渡良瀬遊水地 【平常時】 【出水時】 約1.6億m³貯留  菅生調節池、稲戸井調節池、田中調節池 【平常時】 【出水時】 合計約9,000万m³ 貯留 ※数値等は速報値のため、修正となることがあります ・渡良瀬遊水地は日本最大の遊水地で、普段はレクリエーションの場として利用されていますが、洪水時には、渡良瀬川、おもいがわ 川、うすまがわ 巴波川の水をいったん取り込み、遊水地周辺や下流に流れる量を軽減し、利根川の水位を低下させます。 昭和 45 年から供用され、令和元年も含め今まで 15 回の貯留実績があります。	河川改修・減災対策は、第5学年の内容

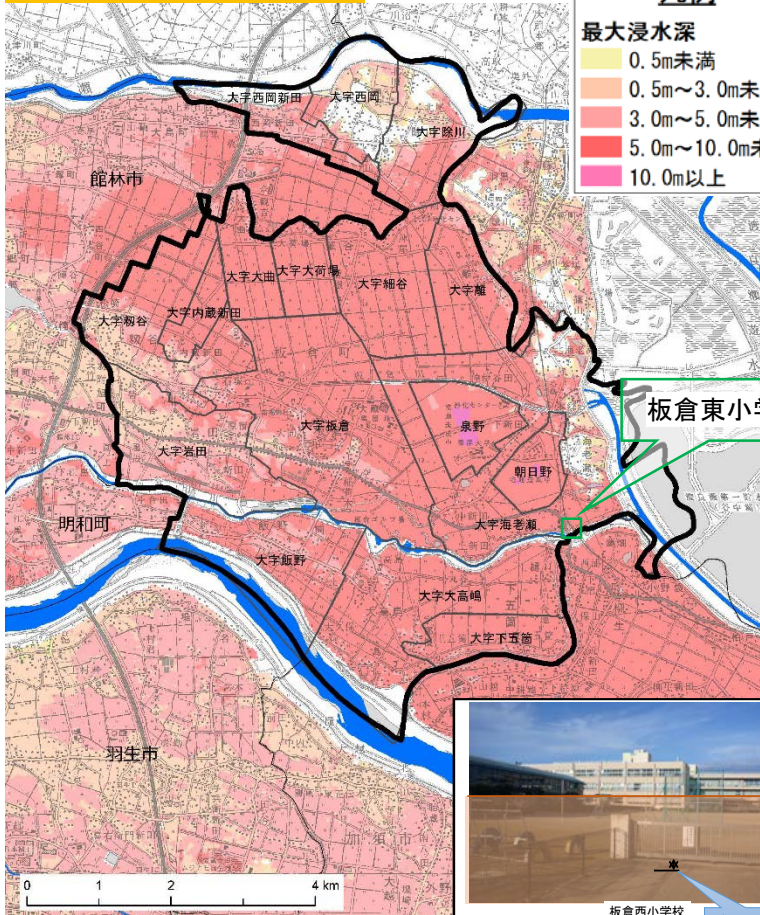
学習指導計画（案）		指導・支援	河川に関わる資料	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、内容）			
調べる	【国・県の取組】 【町・地域の取組】 ◆利根川の水害に対する国、都県、市区町や地域等が進めている治水対策・減災対策などについて調べる。 ＜減災対策＞ ・タイムライン ・ホットライン ・浸水想定区域図 ・排水活動 ・水防活動※ ・水害ハザードマップ※ ・防災訓練※ ※自治体や地域の活動	減災対策（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p33～36） ・進行性の災害である水害対応においては、タイムラインの作成とホットラインの実施により、発災時に効率的・効果的に応急対策を行うことができ、被害防止につながります。 タイムライン  ホットライン（市区長－河川事務所）  ・ホットラインとは、市区町長が行う避難勧告等の発令の判断を支援するための情報提供の一環として、河川管理者から、必要に応じ河川の状況、水位変化、今後の見通し等を市区町長等へ直接電話等で伝える仕組みのことです。 水防活動  ・河川管理者は、大雨や洪水氾濫によって住宅地側に水がたまって河川への排水が進まないとき、排水ポンプ車を出動させて、安全を確認しながら利根川等への排水作業を行い、住宅地側で浸水が続く時間を短くするように対応を行います。	河川改修・減災対策は、第5学年の内容	

4.3（3／12）わたしたちの学校での災害に対する備えは

防災教育学習指導計画（案）「自然災害からくらしを守る（小学校 第4学年 社会科）」

学習指導計画（案）作成：板倉町立板倉東小学校
追記：国土交通省 利根川上流河川事務所
河川に関わる資料：国土交通省 利根川上流河川事務所

時限	小单元	ねらい
3／12	「わたしたちの学校での災害に対する備えは」	・気付きを防災のひみつ発見カードに表す活動を設定することにより、集めた情報を共有したり、整理したりすることができるようにする。

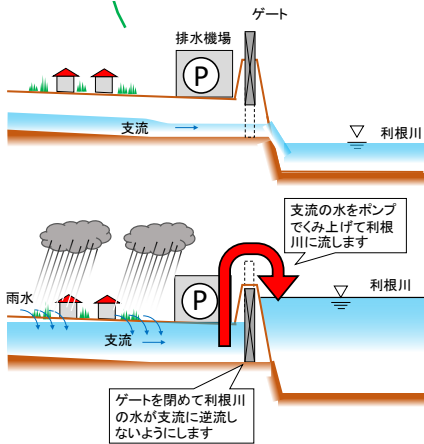
学習指導計画（案）		指導・支援	板倉町の防災対応に関わる資料	河川に関わる資料	備考								
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、 内容）												
調べる	◆3：わたしたちの学校での災害に対する備えについて調べよう。 ・地震の時 ・風水害の時 ◎：学校にある災害に対する備えをしらべよう。 ☆体育館の横に防災倉庫があるよ ☆職員室、体育館に AED がある - AED - 防災倉庫耐震設備等 - 災害備蓄品一覧 - 太陽光発電パネル（屋上） - 非常用コンセント ・体育館の横にあるね。 ・倉庫の中はどうなっているのかな。 災害備蓄品について ・何のためにあるのかな？ ◎アレルギーに対応した食品はあるのかな？ ・何人分あるのかな。 ・何日分あるのかな。 ・どうやって使うのかな？ ・自分たちで調べたことをまとめて、発表してみよう。	・災害に対する備えに気づくようにする。 ・地震の時 ・風水害の時 ○気付きを「防災のひみつ発見カード」に表す活動を設定することにより、集めた情報を共有したり、整理したりすることができるようにする。	板倉町の防災施設など（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p26～31）  太陽光発電パネ  非常用コンセ  ぼうさいそう 防災倉  ぼうさいそう 防災倉庫内部の写  ぼうさいそう 防災倉庫内部の写  AE ・板倉東小学校（体育館）は板倉町によって避難所に指定されており、災害時には町の人たちが避難する場所として見込まれています。 ・小学校の中には災害時の備えとして、太陽光パネルや防災倉庫、AEDがあります。防災倉庫の中には、災害時に避難した人たちのための飲み水や食べ物（アレルギー対応食）などが保管されています。	利根川 洪水浸水想定区域  凡例 最大浸水深 0.5m未満 0.5m～3.0m未満 3.0m～5.0m未満 5.0m～10.0m未満 10.0m以上 板倉東小学校 （注）渡良瀬川の北側にも浸水想定区域がありますが、本図では表示されていません。  板倉西小学校 浸水深3.0mの場合、1層の天井まで浸水 <table><tr><td>計画規模</td><td>利根川流域の想定最大規模降雨</td></tr><tr><td>最大浸水深</td><td>3.0m以下</td></tr><tr><td>洪水到達時間</td><td>利根川の左岸×で堤防が決壊した場合、約12時間後</td></tr><tr><td>浸水継続時間</td><td>12時間程度</td></tr></table> ・河川管理者が公表している利根川の洪水浸水想定区域図によれば、板倉町は概ね 5m～10m で、板倉西小学校は最大 3m 程度の浸水が想定されます。	計画規模	利根川流域の想定最大規模降雨	最大浸水深	3.0m以下	洪水到達時間	利根川の左岸×で堤防が決壊した場合、約12時間後	浸水継続時間	12時間程度	対象学年 第 4 学年
計画規模	利根川流域の想定最大規模降雨												
最大浸水深	3.0m以下												
洪水到達時間	利根川の左岸×で堤防が決壊した場合、約12時間後												
浸水継続時間	12時間程度												

4.4 （4／12）板倉町での水害に対する備えを調べよう

防災教育学習指導計画（案）「自然災害からくらしを守る（小学校 第4学年 社会科）」

学習指導計画（案）作成：板倉町立板倉東小学校
追記：国土交通省 利根川上流河川事務所
河川に関わる資料：国土交通省 利根川上流河川事務所

時限	小单元	ねらい
4／12	「板倉町での水害に対する備えを調べよう」	・身近な地域を調査することにより、水害の備えとその意味を具体的に理解する。

学習指導計画（案）		指導・支援	板倉町の防災対応に関わる資料	河川に関わる資料	備考																																																																																																																																																																																		
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の 反応、内容）																																																																																																																																																																																						
調べる	◆4：わたしたちの町での水害に対する備えについて調べよう。 ◎板倉町では、風水害に対する備えはどうしているのでしょうか。 ☆3年生のとき、水塚（みずか）、揚舟（あげぶね）をみたよ。 ☆土嚢、排水機場 ・防災訓練（6月） ◎排水機場はどんな働きをするのかな。 ☆町役場の人の話 川の水が増えると大変だね。 町役場の人の話 板倉町は、利根川、渡良瀬川、またその支流である谷田川の堤防に囲まれている、土地の高さが低いため、大雨が降ると、川へ水を流すことができません。このため、5つの排水機場でポンプを使って川へ流しています。（内水対策といえます） ・町役場の人の役割や動きをまとめてみよう。	・災害が発生したときには、人々の協力や、関係機関の連携によって、避難、救命、救助、復旧のための活動がおこなわれていることがわかる写真を示す。 ○身近な地域を調査することにより、水害の備えとその意味を具体的に理解することができるようにする ・災害発生時の人々や関係機関の働き ・関係機関の役割と連携	救命・救助のイメージ写真  写真 救命・救助のイメージ ・災害時には自衛隊が派遣され、逃げ遅れた人たちの救命・救助を行います。 板倉町の避難所 <table><tr><th colspan="8">洪水時緊急避難場所（想定最大規模レベル）</th></tr><tr><td colspan="8">河川が氾濫するおそれがあるとき（【警戒レベル3】避難準備・高齢者等避難開始）発令時などに、浸水の危険から命を守るために緊急的に避難する高台や施設等です。状況により開設しない場所もあります。原則、飲料水・食料・毛布などは、避難者が各自で準備してください。</td></tr><tr><th>種別</th><th>No.</th><th>施設・場所名</th><th>所在地</th><th>洪水時使用可能場所</th><th>収容想定人数</th><th>標高</th><th>想定最大浸水深</th><th>安全レベル</th></tr><tr><td></td><td>1</td><td>旧北小学校</td><td>大字西岡 395</td><td>1階・2階・3階</td><td>1,190人</td><td>22.8 m</td><td>0.0 m</td><td>★★★★</td></tr><tr><td></td><td>2</td><td>北保育園</td><td>大字西岡 331</td><td>1階</td><td>220人</td><td>23.0 m</td><td>0.0 m</td><td>★★★★</td></tr><tr><td></td><td>3</td><td>北部公民館</td><td>大字西岡 485-2</td><td>1階・2階</td><td>210人</td><td>23.1 m</td><td>0.0 m</td><td>★★★★</td></tr><tr><td></td><td>4</td><td>JA邑楽館林板倉北支所</td><td>大字西岡 417</td><td>1階・2階</td><td>60人</td><td>23.4 m</td><td>0.0 m</td><td>★★★★</td></tr><tr><td></td><td>5</td><td>東小学校</td><td>大字海老瀬 4822</td><td>1階・2階・3階</td><td>970人</td><td>21.9 m</td><td>0.0 m</td><td>★★★★</td></tr><tr><td></td><td>6</td><td>わたらせ自然館</td><td>大字海老瀬 4663-1</td><td>1階</td><td>120人</td><td>24.0 m</td><td>0.0 m</td><td>★★★★</td></tr><tr><td></td><td>7</td><td>東洋大学板倉キャンパス</td><td>泉野 1-1-1</td><td>3階</td><td>1,200人</td><td>15.0 m</td><td>6.3 m</td><td>★</td></tr><tr><td></td><td>8</td><td>旧南小学校</td><td>大字大高崎 1696</td><td>3階</td><td>320人</td><td>16.5 m</td><td>5.4 m</td><td>★</td></tr><tr><td></td><td>9</td><td>板倉高等学校</td><td>大字板倉 2406-2</td><td>2階・3階・4階</td><td>1,090人</td><td>18.6 m</td><td>2.7 m</td><td>★★</td></tr><tr><td></td><td>10</td><td>板倉中学校</td><td>大字板倉 2770</td><td>3階</td><td>400人</td><td>15.8 m</td><td>5.5 m</td><td>★★</td></tr><tr><td></td><td>11</td><td>西小学校</td><td>大字岩田 971</td><td>2階・3階</td><td>930人</td><td>18.6 m</td><td>2.7 m</td><td>★★</td></tr><tr><td></td><td>12</td><td>JA邑楽館林板倉西支所</td><td>大字岩田 1003</td><td>2階</td><td>120人</td><td>17.6 m</td><td>3.7 m</td><td>★★</td></tr><tr><td></td><td>13</td><td>合の川水防センター^{※1}</td><td>大字大高崎地先</td><td>1階の一部</td><td>100人</td><td>24.2 m</td><td>0.0 m</td><td>★★★★</td></tr><tr><td></td><td>14</td><td>下五箇地区洪水避難タワー^{※2}</td><td>大字下五箇 213-3</td><td>屋外</td><td>100人</td><td>23.6 m^{※3}</td><td>0.0 m</td><td>★★★★</td></tr><tr><td></td><td>15</td><td>飯野地区洪水避難地^{※2}</td><td>大字飯野地先</td><td>屋外</td><td>600人</td><td>26.3 m</td><td>0.0 m</td><td>★★★★</td></tr><tr><td></td><td>16</td><td>アゼリアモール（屋上駐車場）</td><td>館林市楠町 3648-1</td><td>屋上</td><td>600人</td><td>18.2 m</td><td>3.1 m</td><td>★★</td></tr><tr><td></td><td>17</td><td>道の駅がぞわたらせ</td><td>加須市小野袋 1737</td><td>屋外</td><td>50人</td><td>23.0 m</td><td>0.0 m</td><td>★★★★</td></tr></table> ※1 浸水の被害が見えたり大雨が発生した場合、合の川水防センターは水防活動や関田のため多数の人員や車両が使用しますので、状況により避難者は別の施設へ移動していただくことがあります。 ※2 下五箇地区洪水避難タワー及び飯野地区洪水避難地は、避難が遅れてほかに水平避難できない場合の緊急避難場所です。 ※3 下五箇地区洪水避難タワーの標高は、避難場所（避難ステージ）の高さを示しています。 ※避難所の安全レベルの定義は次ページに示しています （出典：板倉町防災マップ（令和2年6月版）） （次ページに続く）	洪水時緊急避難場所（想定最大規模レベル）								河川が氾濫するおそれがあるとき（【警戒レベル3】避難準備・高齢者等避難開始）発令時などに、浸水の危険から命を守るために緊急的に避難する高台や施設等です。状況により開設しない場所もあります。原則、飲料水・食料・毛布などは、避難者が各自で準備してください。								種別	No.	施設・場所名	所在地	洪水時使用可能場所	収容想定人数	標高	想定最大浸水深	安全レベル		1	旧北小学校	大字西岡 395	1階・2階・3階	1,190人	22.8 m	0.0 m	★★★★		2	北保育園	大字西岡 331	1階	220人	23.0 m	0.0 m	★★★★		3	北部公民館	大字西岡 485-2	1階・2階	210人	23.1 m	0.0 m	★★★★		4	JA邑楽館林板倉北支所	大字西岡 417	1階・2階	60人	23.4 m	0.0 m	★★★★		5	東小学校	大字海老瀬 4822	1階・2階・3階	970人	21.9 m	0.0 m	★★★★		6	わたらせ自然館	大字海老瀬 4663-1	1階	120人	24.0 m	0.0 m	★★★★		7	東洋大学板倉キャンパス	泉野 1-1-1	3階	1,200人	15.0 m	6.3 m	★		8	旧南小学校	大字大高崎 1696	3階	320人	16.5 m	5.4 m	★		9	板倉高等学校	大字板倉 2406-2	2階・3階・4階	1,090人	18.6 m	2.7 m	★★		10	板倉中学校	大字板倉 2770	3階	400人	15.8 m	5.5 m	★★		11	西小学校	大字岩田 971	2階・3階	930人	18.6 m	2.7 m	★★		12	JA邑楽館林板倉西支所	大字岩田 1003	2階	120人	17.6 m	3.7 m	★★		13	合の川水防センター ^{※1}	大字大高崎地先	1階の一部	100人	24.2 m	0.0 m	★★★★		14	下五箇地区洪水避難タワー ^{※2}	大字下五箇 213-3	屋外	100人	23.6 m ^{※3}	0.0 m	★★★★		15	飯野地区洪水避難地 ^{※2}	大字飯野地先	屋外	600人	26.3 m	0.0 m	★★★★		16	アゼリアモール（屋上駐車場）	館林市楠町 3648-1	屋上	600人	18.2 m	3.1 m	★★		17	道の駅がぞわたらせ	加須市小野袋 1737	屋外	50人	23.0 m	0.0 m	★★★★	板倉町の排水機場（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p38～39）  凡例：(国)国土交通省、(農)農林水産省、(県)群馬県  排水機場のはたらき 大雨が降って利根川の水位が支流より高くなると、逆流しないようにゲートを閉めて、排水ポンプで支流の水を利根川に流し、支流沿いの浸水被害を防ぎます。 ゲートを閉めて利根川の水が支流に逆流しないようにします ゲートを開けて利根川の水が支流に逆流しないようにします ・板倉町は河川堤防に囲まれた立地となっていることから。大雨が降ると川へ水が流れずに内水氾濫が発生しやすいため、5つの排水機場でポンプを使って川へ水を流すように対策をしています。	対象学年 第4学年
洪水時緊急避難場所（想定最大規模レベル）																																																																																																																																																																																							
河川が氾濫するおそれがあるとき（【警戒レベル3】避難準備・高齢者等避難開始）発令時などに、浸水の危険から命を守るために緊急的に避難する高台や施設等です。状況により開設しない場所もあります。原則、飲料水・食料・毛布などは、避難者が各自で準備してください。																																																																																																																																																																																							
種別	No.	施設・場所名	所在地	洪水時使用可能場所	収容想定人数	標高	想定最大浸水深	安全レベル																																																																																																																																																																															
	1	旧北小学校	大字西岡 395	1階・2階・3階	1,190人	22.8 m	0.0 m	★★★★																																																																																																																																																																															
	2	北保育園	大字西岡 331	1階	220人	23.0 m	0.0 m	★★★★																																																																																																																																																																															
	3	北部公民館	大字西岡 485-2	1階・2階	210人	23.1 m	0.0 m	★★★★																																																																																																																																																																															
	4	JA邑楽館林板倉北支所	大字西岡 417	1階・2階	60人	23.4 m	0.0 m	★★★★																																																																																																																																																																															
	5	東小学校	大字海老瀬 4822	1階・2階・3階	970人	21.9 m	0.0 m	★★★★																																																																																																																																																																															
	6	わたらせ自然館	大字海老瀬 4663-1	1階	120人	24.0 m	0.0 m	★★★★																																																																																																																																																																															
	7	東洋大学板倉キャンパス	泉野 1-1-1	3階	1,200人	15.0 m	6.3 m	★																																																																																																																																																																															
	8	旧南小学校	大字大高崎 1696	3階	320人	16.5 m	5.4 m	★																																																																																																																																																																															
	9	板倉高等学校	大字板倉 2406-2	2階・3階・4階	1,090人	18.6 m	2.7 m	★★																																																																																																																																																																															
	10	板倉中学校	大字板倉 2770	3階	400人	15.8 m	5.5 m	★★																																																																																																																																																																															
	11	西小学校	大字岩田 971	2階・3階	930人	18.6 m	2.7 m	★★																																																																																																																																																																															
	12	JA邑楽館林板倉西支所	大字岩田 1003	2階	120人	17.6 m	3.7 m	★★																																																																																																																																																																															
	13	合の川水防センター ^{※1}	大字大高崎地先	1階の一部	100人	24.2 m	0.0 m	★★★★																																																																																																																																																																															
	14	下五箇地区洪水避難タワー ^{※2}	大字下五箇 213-3	屋外	100人	23.6 m ^{※3}	0.0 m	★★★★																																																																																																																																																																															
	15	飯野地区洪水避難地 ^{※2}	大字飯野地先	屋外	600人	26.3 m	0.0 m	★★★★																																																																																																																																																																															
	16	アゼリアモール（屋上駐車場）	館林市楠町 3648-1	屋上	600人	18.2 m	3.1 m	★★																																																																																																																																																																															
	17	道の駅がぞわたらせ	加須市小野袋 1737	屋外	50人	23.0 m	0.0 m	★★★★																																																																																																																																																																															

学習指導計画（案）																																														
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の 反応、内容）	指導・支援	板倉町の防災対応に関わる資料	河川に関わる資料	備考																																									
			洪水時緊急福祉避難場所（避難行動要支援者・福祉施設入所者 優先避難場所） 河川が氾濫するおそれがあるとき、高齢者や障がいなどがあり避難行動に手助けが必要な方が、浸水の危険から命を守るために緊急的に避難する施設です。 <table><tr><th>種別</th><th>No.</th><th>施設・場所名</th><th>所在地</th><th>洪水時使用可能場所</th><th>収容想定人数</th><th>標高</th><th>想定最大浸水深</th><th>安全レベル</th></tr><tr><td></td><td>18</td><td>板倉町役場※4</td><td>大字板倉2682-1</td><td>3階</td><td>140人</td><td>18.6m</td><td>2.7m</td><td>★★</td></tr><tr><td></td><td>19</td><td>中央公民館</td><td>大字板倉2698</td><td>3階</td><td>120人</td><td>14.1m</td><td>7.2m</td><td>★★</td></tr></table> ※4 水害が発生した場合、役場は災害復旧のため多数の人員が執務しますので、状況により避難者は別の施設へ移動していただくことがあります。 洪水時緊急避難場所の安全レベル 洪水時緊急避難場所（屋内） 洪水時緊急避難場所（屋外） 洪水時緊急福祉避難場所 安全レベル ★★★ 高台にあり、想定では浸水しない洪水時緊急避難場所 安全レベル ★★ 利根川や渡良瀬川が氾濫したら浸水するおそれがある洪水時緊急避難場所等 安全レベル ★ 利根川や渡良瀬川に加え、谷田川の氾濫でも浸水するおそれがある洪水時緊急避難場所 （出典：板倉町防災マップ（令和２年６月版）） ・板倉町では、地震や洪水等の災害が発生したときに備えて、避難所が決められています。地震に対応する施設は 15 箇所、洪水に対応する施設は 17 箇所あります。 また、自分で避難することが難しい人たち（要配慮者）のための避難所（福祉避難所）については、地震に対応する施設は 9 箇所、洪水に対応する施設は 2 箇所が決められています。 令和元年東日本台風（台風 19 号）における板倉町内の排水機場（国土交通省）の運転状況 <table><tr><th></th><th>排水能力</th><th>累積排水量</th><th>運転時間</th></tr><tr><td>谷田川排水機場</td><td>50m³/s （10m³/s ポンプ×5台） </td><td>約 850 万 m³</td><td>10/12、14：50 ～ 10/15、9：00</td></tr><tr><td>谷田川第2排水機場</td><td>12m³/s （3m³/s ポンプ×4台） </td><td>約 54 万 m³</td><td>10/13 0:47 ～ 10/14 4：20</td></tr><tr><td>谷田川第1排水機場</td><td>10m³/s （5m³/s ポンプ×2台） </td><td>約 280 万 m³</td><td>10/13 0:12 ～ 10/16 7：00</td></tr></table>	種別	No.	施設・場所名	所在地	洪水時使用可能場所	収容想定人数	標高	想定最大浸水深	安全レベル		18	板倉町役場※4	大字板倉2682-1	3階	140人	18.6m	2.7m	★★		19	中央公民館	大字板倉2698	3階	120人	14.1m	7.2m	★★		排水能力	累積排水量	運転時間	谷田川排水機場	50m ³ /s （10m ³ /s ポンプ×5台） 	約 850 万 m ³	10/12、14：50 ～ 10/15、9：00	谷田川第2排水機場	12m ³ /s （3m ³ /s ポンプ×4台） 	約 54 万 m ³	10/13 0:47 ～ 10/14 4：20	谷田川第1排水機場	10m ³ /s （5m ³ /s ポンプ×2台） 	約 280 万 m ³	10/13 0:12 ～ 10/16 7：00
種別	No.	施設・場所名	所在地	洪水時使用可能場所	収容想定人数	標高	想定最大浸水深	安全レベル																																						
	18	板倉町役場※4	大字板倉2682-1	3階	140人	18.6m	2.7m	★★																																						
	19	中央公民館	大字板倉2698	3階	120人	14.1m	7.2m	★★																																						
	排水能力	累積排水量	運転時間																																											
谷田川排水機場	50m ³ /s （10m ³ /s ポンプ×5台） 	約 850 万 m ³	10/12、14：50 ～ 10/15、9：00																																											
谷田川第2排水機場	12m ³ /s （3m ³ /s ポンプ×4台） 	約 54 万 m ³	10/13 0:47 ～ 10/14 4：20																																											
谷田川第1排水機場	10m ³ /s （5m ³ /s ポンプ×2台） 	約 280 万 m ³	10/13 0:12 ～ 10/16 7：00																																											

4.5 (5/12) 消防団や自主防災組織について調べよう

防災教育学習指導計画（案）「自然災害からくらしを守る（小学校 第4学年 社会科）」

学習指導計画（案）作成：板倉町立板倉東小学校
追記：国土交通省 利根川上流河川事務所
河川に関わる資料：国土交通省 利根川上流河川事務所

時限	小单元	ねらい
5 / 1 2	「消防団や自主防災組織について調べよう」	・地域の関係機関は、風水害を未然に防ぐために、避難訓練の実施、危険箇所の見回りや点検など、地域の住民が風水害防止に協力していることを理解する。

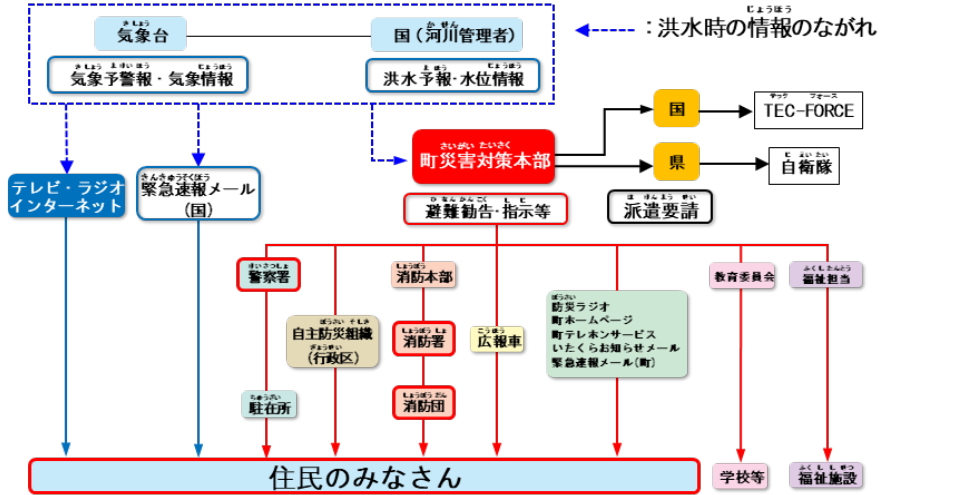
学習指導計画（案）		指導・支援	板倉町の防災対応に関わる資料	河川に関わる資料	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、 内容）				
調べる	◆5：消防団や自主防災組織の取組について調べよう。 ◎消防団や自主防災組織について調べよう。 ☆地域が協力することで災害を少しでも減らせるね。	○消防署の人や町役場の担当者をゲストティーチャーとして招いて、話を伺うようにする。	水防訓練・避難訓練・防災備品  水防訓練  地域住民による避難訓練  防災備蓄品の確認  	水防拠点・堤防点検  水防拠点の事業説明のイメージ  徒歩による堤防の点検のイメージ	
	◎消防団の人に話をきこう ・自然災害に対する人々の働き ・人命・財産を守ることの大切さ ・関係機関の役割・連携 ・防災情報の提供	・それぞれの機関の役割をまとめさせる。	・洪水時に備えて、消防団の人たちは、単独または河川管理者と合同で堤防が決壊しないように被害を抑えるための水防訓練を行っています。		
	・ゲストティーチャーの方のお話を聞いて、どんな感想を持ちましたか。		・板倉町の各地区では、防災倉庫に災害時に備えた資材を保管しています。資材は、電源延長コード、ブルーシート、リヤカーなどです。 ・令和元年東日本台風(台風19号)では、各地で浸水等の被害を受ける危険な状況の中、土嚢積みや住民の避難誘導などの水防活動を行いました。	・河川管理者（国）は、市町や消防団と一緒に、洪水時に比較的危険度が高い河川堤防箇所や区間を毎年台風が来る前の5月頃に現場で確認しています。 平成27年9月の関東・東北豪雨の後、河川管理者は、全国の河川で洪水時の人命をまもり、暮らしへの被害を抑えるため、「水防災意識社会再構築」の取組を関係する県や市町村とともに進めています。この取組の中で、上記の関係者に加え、川沿いの住民も加わって現地確認を行う堤防の共同点検の取組も進められています。	

4.6 (6/12) 水害が起こったら、国や県、町はどのようにするのか

学習指導計画(案)作成：板倉町立板倉東小学校
追記：国土交通省 利根川上流河川事務所
河川に関わる資料：国土交通省 利根川上流河川事務所

防災教育学習指導計画(案)「自然災害からくらしを守る(小学校 第4学年 社会科)」

時限	小単元	ねらい
6 / 1 2	「水害が起こったら、国や県、町はどのようにするのか」	・国や県は、防災計画に基づく防災対策、防災情報の発信や避難態勢の確保などの対策や事業の取組があることに気付く。

学習指導計画(案)		指導・支援	板倉町の防災対応に関わる資料	河川に関わる資料	備考
過程	子供の活動 (◆主な学習活動、・子供の反応、内容)				
調べる	◆6：水害が発生した時に、県や町、消防署や警察署の人々がどのような対策をしているのか調べよう。 ◎風水害が起こったときに、国や県、町はどのような対策をとるのだろうか。 ・自然災害に対する人々の働き ・人命・財産を守ることの大切さ ・関係機関の役割・連携 ・防災情報の提供 ・備蓄、防災情報、避難訓練 ・防災、減災の取り組み ・改修工事、ハザードマップ ・危険地域の見守り ◎資料をみて調べよう ☆自助 ガイド、リーフレット ☆共助 板倉町の防災訓練 ☆公助 自衛隊 防災センター ・どうやって避難しますか。考えてみよう。	○水害が発生すると、県や町などの関係機関は、協力して対処してきたことを具体的に捉えることができるようにする。 ・災害に備えるためにはさまざまな取組がおこなわれているが、一人一人の備えが大切であることを理解し、自分たちにできることを考え、選択・判断できるようにする。	関係機関の情報伝達 (参照：防災教育学習指導計画(案)解説、p33～36)  自衛隊  (人命救助、孤立者救助) 西日本豪雨の時の写真  (水防活動) 桂川洪水時の土のう作成状況 (出典：防衛省ホームページ、 http://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11347003/www.mod.go.jp/j/approach/defense/saigai/h30_oaame/photo.html) ・災害が発生したときに備えて、防災関係機関(气象台や国(河川管理者)、県、市町、消防、警察など)はあらかじめ情報の収集・伝達を行うための連絡の流れを作成しています。 市民への避難行動に関する伝達は、主に市町から発信されます。 災害の規模が大きいときは、被災した自治体(市町、県)から自衛隊やTEC-FORCEの出動要請を行います。 自衛隊は、主に救命救助を行います。	TEC-FORCE  排水ポンプ車による排水状況  ドローン(無人航空機)を使った被災調査状況  ドローン(無人航空機) ・TEC-FORCEは、道路の障害物を取り除いて緊急車両が通れるようにしたり、排水ポンプ車を使って居住地側に氾濫した水を河川に排水したりして災害の復旧を行います。	国・県の働きは、第5学年の内容

1) <参考資料>内水と外水氾濫

学習指導計画（案）		指導・支援	河川に関わる資料	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、内容）			
調べる	【内水と外水氾濫】 ◆利根川などによる外水氾濫のほかに内水氾濫による危険があることに気付く。		外水氾濫と内水氾濫のメカニズム（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p37） 堤外地／堤内地 堤外地／堤内地を区分したななめ写真 ・河川堤防から居住地側を堤内地、河川堤防に囲まれた河川敷を堤外地といいます。 ・外水氾濫は、堤外地の水が堤内地にあふれて浸水被害が発生する場合をいいます。 ・内水氾濫は、堤内地の水が堤外地に流れる前にあふれて浸水被害が発生する場合をいいます。内水氾濫では、下水管が逆流し、マンホールが外れたりします。	
			内水による浸水（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p38～39） 内水氾濫による被害軽減のための排水施設 内水の状況と排水ポンプ車による内水排除 住宅地側 ポンプ車による内水排除（栃木県小山市） 平成29年10月23日 15時撮影 写真 ポンプ車による内水排除の状況（H29/10/23） ・内水氾濫が発生するときは河川の水位が高い状況であるため、水門などで逆流を防ぎながら、排水機場や排水ポンプ車により堤外地へ水をくみ上げて流し、浸水被害の解消を図ります。	

2) <参考資料>洪水発生時の関係機関の動き

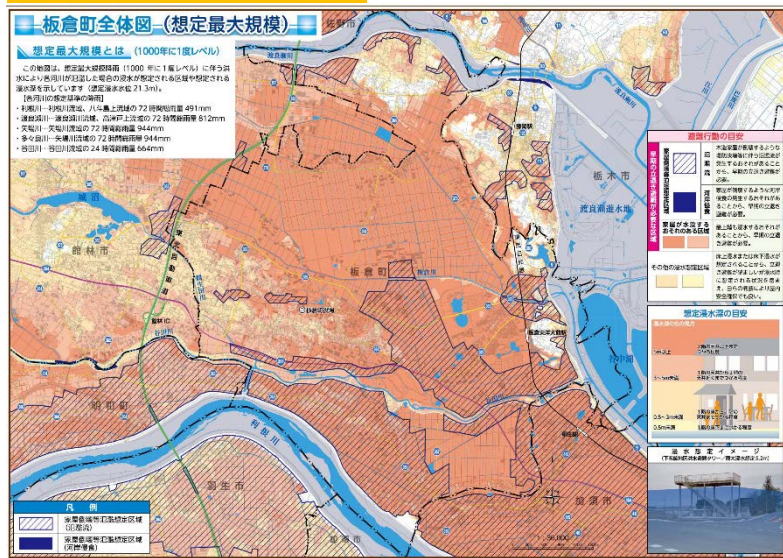
学習指導計画（案）		河川に関わる資料		備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反 応、内容）	指導・支援		
調べる	◆実際に水害が起きたらどのよ うに対応するか調べる。 ・情報伝達 ・水防活動 ・排水活動	洪水発生時の関係機関の動き（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p40～42） 住民に避難勧告等が発令されるまでの連絡系統 洪水予報*、避難の情報の伝達方法（イメージ） 水防活動（再掲） 排水活動（再掲載） 川の水位に応じた水害対応 関係機関の水害対応		

4.7 (7/12) 災害が起こったとき自分でできることは何だろう

防災教育学習指導計画（案）「自然災害からくらしを守る（小学校 第4学年 社会科）」

学習指導計画（案）作成：板倉町立板倉東小学校
追記：国土交通省 利根川上流河川事務所
河川に関わる資料：国土交通省 利根川上流河川事務所

時限	小单元	ねらい
7 / 1 2	「災害が起こったとき自分でできることは何だろう」	・災害当時の避難所の様子を撮った写真や新聞記事をみて、避難者の生活を考えて、自分たちで何ができるかを考える。

学習指導計画（案）		指導・支援	板倉町の防災対応に関わる資料	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、内容）			
調べる	◆7：災害が起こった時、自分でできることはどんなことだろう。 ◎わたしたちにできることを考える ☆避難所の写真 ☆避難所生活の記事 ◎避難所の生活と普段の生活が違うね ☆助け合うことが大切だね。 ・がまんしなくては ・協力しあう。 ◎避難所ってどんな感じだろう。 ◎避難の仕方はどうすればいいのかな ・地震の時 ・風水害の時 ◎避難所ではどんなことをすればいいのだろう。 ・ゴミ出しの手伝い ・周りの整理整頓 ・弟や妹のお世話 ・布団をたたむ など	○災害当時の避難所の様子を撮った写真や新聞記事を見て、避難者の生活を考えさせるようにする。 ・災害への備え、災害時の対応 ・自分でできること ・家庭、地域、学校でできること ・体験してみよう（もあかな？）	避難所の生活の写真  避難所の生活の写真  避難所の生活の写真  （神戸市 提供） ・災害発生のおそれが高まり市町から避難勧告等が発令されたときや地震や水害等の災害が発生したとき、市民は避難所へ避難を行います。大規模な災害によって自宅へすぐに帰ることが難しい場合は、避難所で一時的に生活することになります。	板倉町洪水ハザードマップ  洪水時の避難場所と避難行動のタイミング 河川が氾濫して自宅が浸水するおそれのあるときは ① 自主的広域避難 早い段階(警戒レベル2)で町外の浸水しない親戚・友人宅へ広域避難 ② 広域避難 早い段階(警戒レベル3)で広域避難所や親戚・友人宅などの浸水しない区域へ広域避難 ③ 水平避難 浸水がはじまる前に町内の浸水しない親戚・友人宅、高台や洪水時緊急避難場所へ避難 ④ 垂直避難 浸水がはじまり移動が難しい場合は家の2階など少しでも高いところへ避難 自主避難所 台風の接近に伴い、避難情報が発令される前に、自主的に避難を希望されるかのために一時的に避難する施設です。状況により施設を選定して開設しますので、開設する際に防災ラジオ等でお知らせします。原則、飲料水・食料・毛布などは、避難者が各自で準備してください。施設によっては、【警戒レベル3】避難準備・高齢者等避難開始等が発令されたときに移動をお願いすることがあります。 広域避難所 災害時における相互応援協定等に基づき、周辺市町から提供される緊急的に避難する施設等です。状況により開設しない場合や施設が変更される場合もあります。原則、飲料水・食料・毛布などは、避難者が各自で準備してください。 （出典：板倉町防災マップ（令和2年6月版）） ※避難場所のリストは、本資料「（4/12）板倉町での水害に対する備えを調べよう」、に示しています。

(1) ＜参考資料＞適切な避難行動

学習指導計画（案）		指導・支援	河川に関わる資料	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、内容）			
調べる	◆今までの学習をもとに自然災害に対して自分達にできることについてクラスで話し合う。 - 避難の準備 （持っていく物、行く場所、行き方） - 水位情報 - 警戒レベルと避難行動		事前避難、避難行動、川の防災情報（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p43～44） 適切な避難行動 • 大雨がふって河川の氾濫がおこると、低地にある農地や家屋等が浸水被害を受けます。堤防沿いでは流れが強く、家屋が流されるなど命の危険があります。 このため、避難勧告が発表されるなど危険が高まったときは、余裕をもって高いところの避難所等へ水平避難するか、滞在場所の高い場所へ移動する垂直避難が考えられます。 水位観測所断面図（水と避難の関係） • 河川の主な地点には水位を観測する装置が設置されています。これらの地点で観測された水位はインターネットホームページ「川の防災情報」で発信されています。 また、観測地点別に避難の目安となる水位が設定されており、避難判断水位に到達するとき「避難準備・高齢者等避難開始」、氾濫危険水位に達すると「避難勧告」や「避難指示（緊急）」が発表されます。 警戒レベルに応じた適切な避難行動 それぞれの警戒レベルに相当する情報を、早めの避難行動の判断に役立ててください。 市町村からの避難勧告等の発令に留意するとともに、避難勧告等が発令されていなくとも自ら避難の判断をしてください。 警戒レベル5の状況では災害が発生して避難できなくなることから、警戒レベル3や4の段階で避難することが重要です。 ※1 災害が発生している区域（土砂災害警戒区域や浸水想定区域等）を口で知らせる、避難の判断の根拠に役立たない。 ※2 浸水・氾濫の発生に大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性が高い注意報は、避難準備・高齢者等避難開始（警戒レベル3）に相当する。 ※3 気象庁等の特別警報・警報・注意報は概ね市町村ごとに、危険度分布は概ね1km四方の領域ごとに、指定河川の水予報（氾濫発生情報、氾濫危険情報、氾濫警戒情報、氾濫注意情報）は河川ごとに発表されます。 気象庁 Japan Meteorological Agency 〒100-8122 東京都千代田区大手町1丁目3番4号 電話 (03)3212-8341（代表） FAX (03)6689-2917（耳が不自由な方向け） ホームページ https://www.jma.go.jp/ • 平成 30 年 7 月豪雨では 200 名を超える人的被害が発生するなど甚大な被害が発生しましたが、避難勧告などの情報が受け手である住民に正しく理解されていないと推定されました。このことから、内閣府は、災害発生危険度ととるべき避難行動を分かりやすくするために警戒レベルを5段階で設定し、平成 31 年から運用を始めました。	

4.8 (8～10／12) 防災体験ができる施設に行ってみよう

防災教育学習指導計画（案）「自然災害からくらしを守る（小学校 第4学年 社会科）」

学習指導計画（案）作成：板倉町立板倉東小学校
追記：国土交通省 利根川上流河川事務所
河川に関わる資料：国土交通省 利根川上流河川事務所

時限	小单元	ねらい
8～10／12	「防災体験ができる施設に行ってみよう」	・利根川防災センターを見学し、豪雨体験や土嚢作りなどの体験を通して、防災の意識をもつようにする。

学習指導計画（案）		指導・支援	板倉町の防災対応に関わる資料	河川に関わる資料（国土交通省利根川上流河川事務所）	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、内容）				
みんな で確か める	◆8～10：防災体験ができる施設に行ってみよう ◎防災体験ができる施設では、どのような学習ができるかな。 ☆土のう作り体験 ☆降雨体験	○利根川防災センターを見学し、豪雨体験や土嚢作りなどの体験を通して、防災の意識をもつようにする。 ・降雨体験では、動きがかなり制限されることに気付かせる。 ・自分たちも、防災・減災に関わることに気付かせる。	体験学習の様子、体験施設の様子   水のうづくり体験 ・「土のう」の代わりとして、家庭で簡単に作れるものとして「水のう」があります。 水のうは、ゲリラ豪雨などにより、突発的に浸水被害が発生するおそれがある場合に、室内への浸水を防ぐ手段として活用できます。	 <降雨体験車>  災害対策車両の見学 ・降雨体験車は、車内で台風に関する映像を見ながら、1時間300mmの豪雨を体験することができます。 ・災害対策車両の見学では、全国の災害発生時に国土交通省のTEC-FORCEが使用する「照明車」、「排水ポンプ車」、「対策本部車（拡幅型）」等を見て解説を聞くことができます。	
	◎防災体験ができる施設にき、どんなことを学びましたか。	○逃げるを基本として「自分自身の命は自分で守る」を意識させる。			

4.9 (11~12/12) 『マイタイムライン』を作ってみよう

防災教育学習指導計画（案）「自然災害からくらしを守る（小学校 第4学年 社会科）」

学習指導計画（案）作成：板倉町立板倉東小学校
追記：国土交通省 利根川上流河川事務所
河川に関わる資料：国土交通省 利根川上流河川事務所

時限	小単元	ねらい
11～12/12	「『マイタイムライン』を作ってみよう」	・防災について自分で考えたことを「マイタイムライン」の表す活動を通して、風水害が起きる前や起きた後の防災・減災の取り組みについて具体的に考え、判断できるようにする。

学習指導計画（案）			河川に関わる資料（国土交通省利根川上流河川事務所）	備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の反応、内容）	指導・支援		
広げ 深める	◆11：防災の取組を学んで きて ◎マイ・タイムラインの作 り方を見てみよう。 ◆12：自分たちに何がで きるかを考えて、「マイ タイムライン」を作っ てみよう。」 ◎自分のタイムラインを作っ て見ましょう。	○考えたことを「マ イタイムライン」 に表す場を設ける ことで、水害が起 きる前 や起きた後 の防災・減災の取 り組みについて具 体的に考え、判断 できるようにす る。	マイタイムラインノート（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p45～47） 参照：利根川上流版マイタイムラインノート（板倉町） STEP 3 9.マイタイムラインの作成 知る キーワード 情報収集 家族との連絡 	

1) <参考資料>避難の留意事項

学習指導計画（案）		河川に関わる資料		備考
過程	子供の活動 （◆主な学習活動、・子供の 反応、内容）	指導・支援		
広げ 深める	・今までの学習をもとに家の 人と話し合いながらマイタ イムラインを作成する。	避難の留意事項（参照：防災教育学習指導計画（案）解説、p45～47） タイムライン（洪水時の行動） 各自自治体のハザードマップ ・マイタイムラインを作成する際は、3日前から氾濫発生までの情 報と避難行動を確認し、合わせて洪水ハザードマップや避難用 具、避難の仕方・留意事項について考えておくことが重要です。 避難用具 避難の仕方・留意事項	（出典：板倉町防災マップ、令和2年6月版）	